

令和5年度全国社会就労センター総合研究大会（大分大会） 分科会Ⅰ・Ⅱにおけるテーマ、ポイント、講師・実践報告者

分科会Ⅰ・Ⅱ（大会2日目）のテーマ、ポイント、講師・実践報告者をご案内いたしますので、本大会への参加申込にあたり、分科会選択の際にご参照ください。

※ 内容については、一部変更となる場合がございますので、あらかじめご了承ください。

<分科会Ⅰ・事業種別部会>

① 生保・社会事業部会

テーマ	「生保・社会事業授産施設の意義・役割について」 ※分科会形式：全体討議
ポイント	・ 生保・社会事業授産施設は、生活保護受給、基準該当就労継続支援B型利用、みなし保護、その他の利用（緊急一時避難的な受け入れ、雇用契約締結等）等、多種多様な方が利用しています。 ・ 本分科会では、多種多様な利用者の現状や、それに対する支援、支援を展開するうえでの運営上の工夫、利用者の受け入れにあたる行政等関係機関との連携について、実践報告を通じて学びます。
実践報告者	《調整中》（大分県／社会福祉法人八光会 八光園）

② 雇用事業部会

テーマ	「障害者の労働を考える～多様性と合理的配慮～」 ※分科会形式：パネルディスカッション
ポイント	・ 「就労系障害福祉サービスの利用者の支援ニーズ等の実態把握等に関する調査研究」の結果と令和4年度社会就労センター実態調査の結果を踏まえて、就労継続支援A型事業における利用者のニーズと事業者が提供している支援のギャップを理解することを目的とします。 ・ また、企業側が考える就労継続支援A型事業の役割と事業者が考える役割のギャップを理解します。
登壇者	長谷川 珠子 氏（福島大学行政政策学類 准教授） 関原 深 氏（株式会社インサイト 代表取締役） 井上 忠幸 氏（全国社会就労センター協議会 制度・政策・予算対策委員長）

③ 就労継続支援事業部会 & 生産活動・生活介護事業部会 合同

テーマ	「障害者にとっての“働く役割・やりがい” ～就労継続支援B型事業・生活介護事業の役割～」 ※分科会形式：実践報告・グループワーク
ポイント	・ 就労継続支援B型事業と生産活動を行う生活介護事業の間には、生産活動を実施していることに加え、多様な利用者を支援していること等、多くの共通点があります。 ・ 本分科会では、実践報告を基に、3つのテーマでグループワークを行い、それぞれのテーマごとに就労継続支援B型事業と生産活動を行う生活介護事業の役割の理解を深めます。 【グループワークのテーマ】 ① 高工賃をめざして ② 日中活動のあり方 ③ 障害特性や高齢化に合わせた仕事づくり
実践報告者	中尾 富嗣 氏 (佐賀県／社会福祉法人佐賀西部コロニー 多良岳福祉園管理者)

④ 就労移行支援事業部会

テーマ	「就労移行支援事業の現状と課題」 ※分科会形式：講義・ディスカッション
ポイント	・ 昨今の障害者雇用は、雇用代行ビジネス等、検討しなければならない課題が存在しています。また、改正障害者総合支援法に「就労選択支援」が盛り込まれ、障害者雇用の新しい流れができようとしています。 ・ これまで障害者雇用を推進してきた就労移行支援事業所は、「就労選択支援」の実施機関として期待される一方で、地方部での事業所数の減少等の課題が山積しています。 ・ 本分科会では、改めて就労移行支援事業の現状と課題を確認し、今後、求められる就労移行支援事業所の役割を考察します。
登壇者	藤尾 健二 氏 (特定非営利活動法人全国就業支援ネットワーク 代表理事) 小澤 啓洋 氏 (全国社会就労センター協議会 就労移行支援事業部会長) 谷山 恵一 氏 (全国社会就労センター協議会 就労移行支援事業部会副部長*)

* 令和3・4年度の役職

<分科会Ⅱ・課題別に実施する分科会>

テーマ①

テーマ	「くらすを支えるとは何か？」 ～多様化・複雑化するニーズに応える社会福祉法人の実践～
ポイント	・ 「生活困窮」「加齢」「DV」「ひきこもり」「隣人トラブル」等、障害のある方を取り巻く環境は大きく変化しており、従来の“縦割り”の考え方では対応できない事例が増えています。 ・ 本分科会では、“障害分野”に留まらず、地域のよろず相談を実践する社会福祉法人の事例を通して、地域で“くらす”障害のある方を取り巻く課題やニーズに関する理解を深めます。さらに、実践の目的や見据える未来を対談形式で掘り下げます。
実践報告者 対談者	〔実践報告〕若倉 健 氏（栃木県／社会福祉法人恵友会 桜花 施設長） 〔実践報告〕赤嶺 光徳 氏（大分県／社会福祉法人博愛会 パルクラブ 管理者）

テーマ②

テーマ	「産学福連携における農福連携イノベーション 創出の取り組みについて」
ポイント	・ “農福連携”の取り組みは、“水産業”や“林業”、“伝統産業”等との連携のように大きな広がりを見せています。 ・ 石川県にある社会福祉法人佛子園は、石川県立大学と連携し、新しい“農福連携”の実践を進めています。キーワードは“羊”。障害者のための飼料生産用機械の改良と羊飼育が障害者の症状ならびに羊のストレスに及ぼす影響を解明することで、障害者支援施設での羊生産事業の成立を目指しています。 ・ “産学福連携”による新しい“農福連携”の形を報告します。
実践報告者	石田 元彦 氏（石川県立大学名誉教授・特任教授） 藤原 和也 氏 （石川県／社会福祉法人佛子園 日本海倶楽部ザ・ファーム チーフ）

テーマ③

テーマ	「魅力的な職場づくりの3つの視点～選ばれる事業所へ～」
ポイント	・ 少子高齢化、生産年齢人口の減少。昨今、深刻な“人材不足”が続いています。就労支援事業所も例外ではなく、人材確保・人材定着は喫緊の課題です。 ・ 本分科会では、現場をよく知る社会保険労務士の大泉氏より魅力的な職場をつくるための3つの視点を学びます。また、講師の事務所に寄せられる、魅力的な職場づくりに欠かせない相談事例を Q&A 方式で学びます。
登壇者	大泉 敦史 氏（茨城県／ホワイト企業社会保険労務士事務所 代表）

テーマ④

テーマ	「ふつうの場所で愛する人との暮らし」を実現するために ～ “結婚推進室ぶ～け” の取り組み～
ポイント	・ “障害のある方の暮らし” には、当然に “夫婦・パートナーとの暮らし” も含まれます。しかし、施設内で結婚・同居を希望した障害者に不妊処置を受けさせるような事案が報道され、“夫婦・パートナーとの暮らし” の無理解が表出されました。 ・ 長崎県の社会福祉法人南高愛隣会 “結婚推進室ぶ～け” では、「ふつうの場所で愛する人との暮らし」を実現するために、長年にわたり、「出会い・恋活（婚活）のサポート」、「夫婦・パートナー生活の応援」、「子育てサポート」等の支援を行ってきました。 ・ 本分科会では、“結婚推進室ぶ～け” の取り組みを学び、「ふつうの場所で愛する人との暮らし」の実現に繋がります。
実践報告者	松村 真美 氏（長崎県／社会福祉法人南高愛隣会 常務理事）